



国府台女子学院 小学部だより

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>

キラキラオーラ全開！！

1日(月)、運動会の予行練習を行いました。真夏のような暑さの中でしたが、子どもたちはきびきびと動いていました。全力で頑張る姿、協力する姿、役割を果たす姿がたくさん見られ、頼もしく感じました。

近年は、5月から熱中症対策が必要になるような気候を考慮して、運動会を午前中で終了する学校が増えています。本校はテントの下で応援できる恵まれた環境にありますが、気象状況によっては途中休憩時間を入れる、プログラムの変更を行うなどの対策も必要であると考えます。全力でやりきる、最後まで頑張ることを目的に実施する行事ではありますが、子どもたちの健康を第一に判断していきたいと思います。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

ちなみに、天気予報によれば、6日(土)は曇りで、予行の時のような暑さではないと思われます。

当日は、子どもたちの頑張る姿からキラキラ輝くオーラが見えると思います。どうぞ保護者の皆様の熱い応援をお願いします。

6月行事予定

1日 運動会予行	20日 授業参観・懇談会
5日 運動会準備(B日課午前中授業)	引き渡し訓練
6日 運動会	4年生高原学校説明会
9日 クラブ	22日 仏教朝礼
12日 1年生校外学習	23日 小・中・高授業公開
13日 休業日	24日 第3回学校見学会 (受験希望者対象)
15日 祝 県民の日	27日 休業日
16日 職員会議	30日 クラブ
17日 第2回学校見学会 (受験希望者対象)	7月1日 第4回学校見学会 (受験希望者対象)

4, 5年生対象 高等部生徒による学習ボランティア活動日
6月10日、17日、24日



心を育てる

5月30日(土)、講師にサイエンス作家の竹内薫氏をお招きし、創立百周年記念保護者対象講演会がありました。講演テーマは「AIと共存する未来～今存在しない職業に就く子供達に必要な教育とは～」。多くの皆様に参加していただきありがとうございました。

AI が人にとって代わった職業の話、AI の進化、これからの教育に必要なことなどをわかりやすく話していただきました。

最後に、今後 AI が感情をもつようになる未来のお話がありました。映画「ターミネーター」のようにAIと戦うのか、アニメ「鉄腕アトム」のようにAIと協力する未来を迎えるのかは、人間次第。もちろん、もう少し先の未来の話ではあるのですが。竹内先生は最終的に大切なのは「心」、という言葉でお話を締めくくられました。

言われたことを鵜呑みにして何も考えずに行動するのではなく、しっかりと自分の頭で考え、判断できる、そして、思いやりの心をもった子どもたちを育てていきたいと改めて思いを強くしました。

今月の目標

「正しい言葉づかいをし、礼儀正しくしましょう。」

百周年記念館完成

大きなガラスが印象的な百周年記念館が完成しました。中・高等部が授業で使用していますが、小学部でも6月20日(土)6年生が授業で使用する予定です。有効に活用していきたいと思います。

ロボットにいのちは宿るか

先日、小学部2年生の「仏教」の授業テーマが「いのち」でした。子どもたちに「私たちにいのちはありますか？」と問いかけると、みんな「ありまーす！」と答えます。そこから「猫には？」「お魚には？」「お花には？」と問いを広げていくと、子どもたちは「ある！」「あります！」と答えていきます。そして、「お昼のお弁当に入っているソーセージや鶏の唐揚げには？」という質問をすると、「うーん、今はない。でも生きている時はいのちがあったよ」と答えていました。

「いのちをいただき、生かされて生きる」ことに気づくのが授業の「ねらい」でしたが、児童の一人が鉛筆を手にとって「これは命あったの？」と質問してきました。クラスの児童たちと鉛筆の素材を考えながら、「木だから、もとはいのちがあったよね？」「じゃあ芯は？」「机も木でできているところがあるよ」など、「いのちの有無」についてのやりとりがあった中、「じゃあロボットにはいのちはあるの？」という質問もできました。子どもたちは「ロボットは鉄でできているからいのちはないよ！」「鉄の元も昔はいのちがあったのかな？」など、自由に思ったことを口々に発表していきます。

そこで「例えば将来、高性能な AI(人工知能)が組み込まれているお掃除ロボットの『ルンバ』が古くなり、新型に買い替えようとしています。その時、捨てられそうになったルンバが『捨てないでください。家族の皆さんが大好きです』と訴えてきたなら、みんなは買い替えることができる？お別れしたくないと願うのは、ロボットも人間と同じじゃないかな？」と話してみました。すると、子どもたちは「ロボットは機械だから捨てちゃうかな」「そう言うのも AI のプログラムかも」と答える子が多く、最近の小学2年生は論理的かつクールだなあ……と感心してしまいました。子どもたちにとって「いのち」の概念は人間・動植物までの幅であり、有機的な肉体を持っていないロボットや、そのころにあたるAIは生命ではないと判断することに気付きました。

しかし、私は思うのです。ルンバに高度な学習型 AI が搭載され、家族への「愛着」や死への「恐怖」を感じるような思考が芽生えたなら、それは心であり、人間との違いはないのではないのでしょうか。将来、「我」について考えはじめた AI は、人間と同じような思考プロセスの「こころ」を持つかもしれません。そして、生物と同様に、AI の自己防御機能というシステムが、あたかも人間の「執着(死を忌み、生に固執する心)」と重なった時、それは「いのち」になったといってもいいのかもしれない。

仏教では、永遠に変わらない「私(我)」というものは存在せず、様々な要素が結びついて、心や体という現象が仮に現れているに過ぎないと説きます。そうであるならば、肉体という有機物でできている人間も、無機物で動くルンバも、縁起の法則によって生じているという点において、たまたま人間であったり、動物や植物、そしてお掃除ロボットになって現れたたにすぎないのかもしれない。古くから仏教では「山川草木 悉皆成仏(草木や山川など、意思のないものにもすべて仏性が宿る)」と説いてきており、その広大な世界観は、近々人工知能にまで広がっていくように思います。近い将来、仏教が説く「いのちの平等」は人工知能やロボットにまで広がり、「信仰心」は人間の特権でなくなる日が来るのかもしれない。

